

学術コミュニケーションの動向

東京大学医学部・医学系研究科情報サービス係長 田口忠祐

ORCID iD: 0000-0001-9820-8333

1. 学術コミュニケーションについて

- 定義
 - ⇒ 学術情報の生産、流通、保存、利用までの一連のライフサイクル
- 本講義で対象とする範囲
 - ⇒ 主に学術情報流通部分
- 学術コミュニケーションの経緯
 - ⇒ シリアルズクライシス、オープンアクセス、オープンサイエンス

2. 現在の学術コミュニケーションを取り巻く状況

2.1. 検索と発見（紙から電子資料へ）

- 情報を検索するためのシステム
 - OPAC / ディスカバリーサービス
 - ⇒ 紙の資料もしくは電子資料の一部が発見可能
 - 電子ジャーナルリスト (A to Z) / リンクリゾルバー
 - ⇒ 電子資料の発見が可能
 - CiNii Books
 - ⇒ 大学図書館等が所蔵する紙の資料と電子資料の一部が発見可能
- 検索するための情報を管理するシステム
 - NACSIS-CAT
 - ⇒ 主に紙の資料が対象
 - ERDB-JP
 - ⇒ 主に電子資料（雑誌）が対象
 - ナレッジベース
 - ⇒ 電子リソースのタイトルとURLといった簡単なメタデータを網羅的に収集し最新版として管理
- 紙の資料と電子資料を統合的に管理するシステム
 - Library Services Platform (LSP)

⇒ 統合図書館システム（Integrated Library System: ILS）に、電子情報資源管理システム（ERMS）やナレッジベースを含め、紙の資料と電子資料を統合的に管理することが可能なシステム / 共同運用

- Alma (ExLibris) / OCLC WorldShare Management Services (OCLC) etc.

- 今後に向けた取り組み

- これからの学術情報システム構築検討委員会の活動
⇒ CAT2020 / ERDB-JP

2.2. 研究成果の発信（オープンアクセスからオープンサイエンスへ）

- 研究成果を発しするためのシステム

- 機関リポジトリシステム
 - DSpace / JAIRO Cloud etc.
- ⇒ 既に機関リポジトリを公開している機関のうち、半数以上がJAIRO Cloudを利用
 - JAIRO Cloudを利用：498機関 / JAIRO Cloud以外を利用：256機関
(2018年3月末 NII調べ)

- 機関リポジトリに登録されているコンテンツ
⇒ 日本の登録コンテンツの大半は紀要論文で、世界的に見てもまれ。

- メタデータ流通の仕組み

- IRDB（学術機関リポジトリデータベース）
- 新しいメタデータスキーマ
⇒ junii2からJPCOARスキーマへ
 - JPCOARスキーマ策定 / JPCOARスキーマの特徴

- 機関リポジトリを支えるオープンアクセス

- オープンアクセス（OA）とは
- グリーンOAとゴールドOA
⇒ 機関リポジトリはグリーンOAを推進
- OAの状況
- オープンアクセス方針の策定
⇒ 日本では24機関がオープンアクセス方針を策定済み（2018.7.13 現在）

- オープンサイエンス

- オープンサイエンスとは
 - 第5期科学技術基本計画 / 統合イノベーション戦略 etc.
- データリポジトリシステム
 - DIAS / DARTS / SSJDA etc.
 - データリポジトリ認証（CoreTrustSeal認証）
- 研究データ管理
 - RDM / FIAR原則

- これからのリポジトリシステム
 - 次世代リポジトリ (Next Generation Repositories : NGR)
 - デジタルアーカイブとの関係
 - デジタルアーカイブの国内動向
- オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) の活動
 - リポジトリを中心としたオープンアクセス、オープンサイエンスの推進
 - ⇒ 3つの作業部会と5つのタスクフォース
 - 国際連携の強化
 - COAR / OpenAIRE etc.

3. これからの学術コミュニケーション

3.1. これからの学術コミュニケーションに求められるもの (3つのポイント)

- 研究助成と研究成果をつなぐ
 - 研究助成 / KAKEN
- IDでつなぐ
 - 様々なID
 - ⇒ コンテンツに付与するID / 人に付与するID / 機関に付与するID
 - DOIを付与する機関
 - JaLC / Crossref / DataCite etc.
- 全てをつなぐ
 - CiNii Research / 知識グラフ

3.2. 図書館員の役割とは

参考文献

- 1) “Scholarly Communication Toolkit: Scholarly Communication Overview” http://acrl.libguides.com/scholcomm/toolkit?page_id=25
- 2) 武田英明. “オープンサイエンスの4つの起源” <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.6619109>
- 3) 飯野勝則. “電子リソース管理システムの国内利用可能性に関する検討状況” https://www.nii.ac.jp/csi/openforum2017/track/pdf/20170608PM_Cont_02_iino.pdf
- 4) 上野友稔, 香川朋子, 古橋英枝, 塩野真弓. “オープンなナレッジベースの進展とその背景” カレントアウェアネス. 2015, (326), CA1860, p. 6-8. <http://current.ndl.go.jp/ca1860>
- 5) 上野友稔, 香川朋子, 片岡真. “共同運用による図書館システム導入の新たな可能性” カレントアウェアネス. 2017, (331), CA1896, p. 22-28. <http://current.ndl.go.jp/ca1896>
- 6) 大谷周平. “Library Services Platformの現在” カレントアウェアネス. 2015, (326), CA1861, p. 9-14. <http://current.ndl.go.jp/ca1861>

- 7) “機関リポジトリ概論” 2017年度機関リポジトリ新任担当者研修テキスト. <http://id.nii.ac.jp/1458/00000076/>
- 8) 大園隼彦, 片岡朋子, 高橋菜奈子, 田口忠祐, 林豊, 南山泰之. “JPCOARスキーマの策定: 日本の学術成果の円滑な国際的流通を目指して” 2018, 情報管理. 60(10), p.719-729. <https://doi.org/10.1241/johokanri.60.719>
- 9) "2018年度JPCOARスキーマ説明会資料" <http://id.nii.ac.jp/1458/00000110/>
- 10) 尾城孝一, 杉田茂樹, 木下直, 松本侑子, 石田唯, 井上 知永理, 大原司, 横井慶子. オープンアクセスハンドブック 第2版. 2017, <http://hdl.handle.net/2261/72694>
- 11) 第5期科学技術基本計画. <http://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5honbun.pdf>
- 12) 統合イノベーション戦略. http://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/tougo_honbun.pdf
- 13) オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会. “統合イノベーション戦略についての見解” <http://id.nii.ac.jp/1458/00000106/>
- 14) RDMトレーニングツール. <http://id.nii.ac.jp/1458/00000023/>
- 15) 絹谷弘子, 北本朝展. “研究データ管理を考える: データリポジトリのサービスとCoreTrustSeal認証” https://doi.org/10.11502/joss2018_c5_01
- 16) Next Generation Repositories Working Group. "Behaviours and Technical Recommendations of the COAR" 2017. <https://www.coar-repositories.org/files/NGR-Final-Formatted-Report-cc.pdf>
- 17) 林正治. “次世代リポジトリの機能要件および技術勧告” カレントアウェアネス-E. (344), E2011, 2018. <http://current.ndl.go.jp/e2011>
- 18) 林豊. “次世代リポジトリのヴィジョン” 情報の科学と技術. 68(5), 2018, p.258-259. https://doi.org/10.18919/jkg.68.5_258
- 19) 高野沙弥, 林豊, 前田朗, 南山泰之, 山地一禎, 尾城孝一, 林正治, 林洋平, 田口忠祐, 小野亘. “次期JAIRO Cloud開発共同タスクフォース報告: 次世代リポジトリの機能に関する提案” <http://id.nii.ac.jp/1458/00000091/>
- 20) 船守美穂. “電子ジャーナルと論文OA問題の国際動向と論点整理” https://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=174899
- 21) 船守美穂. “電子ジャーナル契約で今、なにが起こっているのか?—商用出版社との攻防と、OAの道” https://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=172296